

森林再生の提言

地球環境問題と森林（社会から見た森林）

日時：平成21年11月21日（土） 13:00～15:00

講師：滑志田 隆（林政審議会特別委員）

概況



1. 地球規模の視点と環境協力

世界における大規模な森林の減少・劣化は、地球温暖化、生物多様性の損失、砂漠化の進行等、地球規模での環境問題を更に深刻化させるおそれがある。このため、各国、関係国際機関、NGO 等との協力の下、持続可能な森林経営を推進するための基準・指標の作成を進めるとともに、開発途上地域に対する森林の整備・保全等の面での積極的な協力を推進していくことが重要である。

2. 減少し続ける世界の森林

世界の森林面積は約 39 億 ha で、全陸地面積の約 30%を占めています。1990 年から 2000 年の森林面積の変化をみると、熱帯地域以外では若干増加しているものの、熱帯地域では急激に減少しています。

熱帯の天然林は、毎年 1420 万 ha ずつ失われたとされています。これは本州の 3 分の 2 の面積に相当します。

3. 日本の森林の状況と国民の期待意識

日本の森林は、全面積の 25,121ha のうち、国有林が約 31%を占めており、他は県、市町村、財産区の公有林と私有林となっている。

森林の働きに対する期待として、「山崩れや洪水などの災害防止」や「水源のかん養」など国民生活の安全や安心につながる森林の機能への期待が最も高くなっている。また、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」にも大きなものがある。一方、木材生産への期待は、昭和 55 年以降、年々低下して、最

も低くなっている。日本の木材自給率は 18%であり、各国に比べても担当に低い水準である。

4. 秘境バルチスタンの自然再生

緑の募金事業(国際協力)によって展開されている NPO 法人ヒマラヤン・グリーン・クラブの「ヒマラヤ山岳村落周辺自然林再生計画」の取組について、現地指導調査を行い、パキスタン北部のバルチスタン地方で 10 年間にわたって行ってきており、ポプラなどの植林の厳しい状況について、お話しがありました。